

フードバンクによる食料循環のネットワーク構築

活動地域  長野県

つづける助成
3年目
実践

寄贈食料受入	52t
フードドライブ開催数	91か所
今年度計画の達成度	100%
目標達成度	46%



「新型コロナウイルス対応」のためのフードドライブ

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの影響で業務量が大幅に増えたが、それに見合った人的、財源的な確保が難しく厳しい中で対応を余儀なくされた。その中で新たなボランティアのつながりや団体との連携により乗り切った。

■工夫した点

非常時対応に追われたが、フードバンクが行政、社協、民間団体、学生など多様な団体、個人がそれぞれの役割をはたす場を提供することでできた。

課題

企業からの食料寄贈量の増加とフードドライブを県内の多くの地域で開催するための地域ネットワークの構築、及び食品の管理システムの導入。

目標

長野県内でフードバンク活動が広がり、食品ロスが削減され、食料を循環させる県民意識が高まっている。

活動内容と成果

- 新型コロナウイルス禍で年間の食料支援のニーズが通常の約2倍に増加したことから、ニーズに対応するため会員団体等と連携して、企業や市民に食料寄贈を呼び掛け、緊急的な支援活動を行った。特に子どものいる家庭で困窮に陥っている世帯を対象に「緊急応援プロジェクト」を実施したところ、期間中の寄贈量が大幅に増加した。これを契機にそれぞれの地域での活動にもつながり、広がった
- 新型コロナウイルス禍への対応で取扱い食料が大幅に増加したことに対応し、食品の安全管理と効率的な運用を図るため、食品の入庫管理システムの開発を進めた



申込み世帯に食料を郵送



荷物の中にマスクも入れて……

全助成期間の活動を振り返って

最終年の3年目は、完全に新型コロナウイルス対応の活動に終始した1年であった。災害や感染症などの非常時にあっては、平常時ではあまり意識しなかった食の問題の大きさに多くの人気がついた。企業も一般市民も含めて「食品ロス」のことを考え、「生活困窮」が他人事ではないと気づく転機になったといえる。その結果、新たな企業の参画や家庭の未利用食品の寄贈の増加など、社会的な動きにつながる動きが見えてきた。

〒381-0034
長野県長野市大字高田1029番地1 エンドウビル1F 東
電話：026-219-3215
E-mail：info@foodbank-shinshu.org
HP：http://foodbank-shinshu.org



今後の展望

金銭を伴わない食品流通システムを進めるフードバンク活動は、SDGsの目標に大きく関わる活動であることを、社会全体に広め、SDGsの大きな活動の一貫として取り組むような社会の仕組みづくりを目標に進める。SDGsの目標に向かって、フードバンクがハブとなり、だれでも参加できる活動の場を地域の中につかっていく。